

## 先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

### ◆第1次展示 H2.7-H3.6

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山 万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田島 樹人 (1885-1959)	氣品に富んだ作曲家	(花 輪)
関直 右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

### ◆第2次展示 H3.7-H4.6

小田島 由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花 輪)
浅井 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大 湯)
田村 徳治 (1886-1958)	日本民俗学の創設者	(花 輪)
大黒 武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花 輪)
大渡 部 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

### ◆第3次展示 H4.7-H5.7

阿部 恭助 (1886-1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山 弟 四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花 輪)
諏訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大 湯)

### ◆第4次展示 H5.8-H6.7

田中 北 嶺 (1838-1918)	「戊辰戦役図絵」を描く	(毛馬内)
大田 祐 祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大 湯)
大里 周 蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化医師	(花 輪)
栗山 文次郎 (1886-1965)	かつの古代茜、紫根染の大家	(花 輪)
高杉重右衛門 (1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

### ◆第5次展示 H6.8-H7.9

浅利 佐 助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花 輪)
宮城 佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花 輪)
伊藤 良 三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林 平 (1888-1918)	将来を囑望された天才数学者	(毛馬内)
阿部 貞 一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)

### ◆第6次展示 H7.10-H8.9

児玉 高 慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花 輪)
柴光 春 光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)
阿部 六 郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花 輪)

### ◆第7次展示 H9.10-H10.9

内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅江真澄の研究	(八幡平)
豊口 鋭太郎 (1873-1952)	秋田県教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 霊山 (1882-1945)	スケールの大きい気骨の書家	(毛馬内)

### ◆第8次展示 H11.11-H12.10

高橋 克 三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)
--------------------	-----------------	-------

### ◆第9次展示 H12.11-H13.11

黒沢 隆 朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花 輪)
大里 健 治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

### ◆第10次展示 H13.12-H14.11

石田 収 蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花 輪)
--------------------	------------	-------

### ◆第11次展示 H14.12-H15.11

石川 伍 一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)
--------------------	----------	-------

### ◆第12次展示 H15.12-H16.11

小松 五 平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大 湯)
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花 輪)

### ◆第13次展示 H16.12-H17.11

相川 善 一 郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花 輪)
馬淵 テフ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

### ◆第14次展示 H17.12-H18.11

川口 月 嶺 (1811-1871)	盛岡藩を代表する絵師	(花 輪)
泉澤 織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870)	学問のお師匠様泉澤家	(毛馬内)

### ◆第15次展示 H18.12-H19.11

佐藤要之助 (1859-1892)・良太郎 (1878-1912)	鹿角りんごの礎を築いた父子	(花 輪)
佐藤良雄 (1906-1977)	カザルスのチェロを日本に広めた	(花 輪)

鹿角市先人顕彰館 TEL 0186-35-5250  
〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎 3番地 2

## 先人顕彰シリーズ⑮

# 新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存・事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

佐藤 要之助  
良太郎  
佐藤 良雄



## りんごとチェロの先駆者 佐藤家の人々

### Yonosuke Satô Ryôtarô Satô

鹿角りんごの礎を築いた父子



佐藤要之助

さとう ようのすけ  
1859-1892



佐藤良太郎

さとう りょうたろう  
1878-1912

要之助は父が自宅を開放した花輪寸陰館に学んだ。明治17年盛岡でりんごの苗木を購入し女森（おなごもり）の原野を開拓して本格的にりんご作りを始める。危ぶむ周囲をよそにりんご栽培に精進して見事成功を収め、当時交通手段すら整わない中、秋田県として初めての中央出荷を成し遂げ、鹿角りんごの礎を築いた。

その子良太郎は母と共に父の遺志を継ぎ、りんごの他にぶどうや桜桃も手がけ、西洋農具の導入、温床栽培など革新的農法を取り入れて理想農場をめざした。

#### 略歴 a brief personal record

##### [要之助]

- 安政6年(1859) 1月9日、南部藩給人新之助・セツの長男として花輪町中小路に生まれる。
- 明治17年(1884) 25歳の時、苗木400本を盛岡から購入し、女森の原野を開拓して栽培。
- 明治20年(1887) 県議会議員に選出される(二期務める)。
- 明治23年(1890) 岩手県一関まで鉄道開通したのを機に、東京市場へりんごを出荷。
- 明治25年(1892) 10月25日死去、享年34歳。長年寺に葬る。

##### [良太郎]

- 明治11年(1878) 7月5日、要之助・やすの長男として花輪町中小路に生まれる。
- 明治18年(1885) 花輪小学校へ入学、その後上京。34年、東京専門学校英語政治科卒業。
- 明治38年(1905) 帰郷。2年後、鹿角物産株式会社社長となる。花輪町議會議員に当選。
- 明治42年(1909) 中小路より女森農園に転居し、ぶどう栽培も試みる。
- 明治45年(1912) 4月22日死去、享年35歳。長年寺に葬る。

### Yoshio Satô

カザルスのチェロを日本に広めた  
— 生誕100年を記念して —



佐藤良雄

さとう よしお  
1906-1977

中学生の時、カザルスのチェロをレコードで聞いて衝撃を受けた。その後カザルスへの一途な思いでチェロの道へ進む。

45歳で念願かなって渡仏、巨匠パブロ・カザルスの人間性と芸術にじかに触れながら、2年半指導を受ける。帰国後の帝国劇場や郷里花輪でのコンサートは聴衆に大きな感銘を与えた。

カザルスのチェロ奏者を一人でも多くの日本人に伝えることを使命とした良雄は、東京芸大などの要請を断って「カザルス会」「スズキメソード・チェロ科」を開設し、幼少時からの音楽教育に専念する。今や日本のみならず世界で40万近い子供達が「スズキメソード」で育ち、良雄の播いた種を实らせている。

#### 略歴 a brief personal record

- 明治39年(1906) 6月27日、良太郎・静子の長男として、花輪町中小路に生まれる。
- 大正2年(1913) 花輪小学校入学。1か月後、父の一周忌を終えて一家で東京へ転居。
- 大正7年(1918) 小野アンナ女史に音楽の手ほどきを受け、4年後16歳でチェロを始める。
- 昭和6年(1931) ウェルクマイスター、次いで神戸の柳信二にチェロを5年間学ぶ。
- 昭和14年(1939) 新京音楽院に招聘され渡満。新京オーケストラでも活躍～16年まで。
- 昭和26年(1951) 11月、渡仏。東洋人として初めてパブロ・カザルスに師事。
- 昭和29年(1954) 1月帰国。「カザルス会」創設、「スズキメソード・チェロ科」開設。
- 昭和31年(1956) 「カザルスとの対話」コレドール著・佐藤良雄訳が読売新聞社より初版。
- 昭和52年(1977) 12月17日死去、享年71歳。京都市西京区の京都霊園に葬る。